



蜂苑会役員あいさつ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。在校生のみなさん、進級おめでとうございます。いよいよ新年度がスタートしました。3年生は進路を決定する年、2年生は学校の^{かなめ}要となる年、新入生は新たな希望と目標を見つけ出す年です。生徒のみなさん、今年の目標をしっかりとってこの一年間を過ごしましょう。

また、これまで新型コロナウイルスの感染予防対策で休校がありました。みなさん、しばらく学校生活から離れていたもので、早く学校生活のリズムをつくっていきましょう！

《特集1》着任の先生方へインタビュー！！

本校に今年度着任された5名の先生方へ①～⑧の質問について伺いました。先生方の意外な一面を、みなさんは知るかもしれません。

- ① 星座は？ ② 好きな食べ物は？ ③ 嫌いな食べ物は？
- ④ 高校時代の部活動は？ ⑤ カラオケ十八番は？ ⑥ 今、夢中になっている事は？
- ⑦ 座右の銘 ⑧ 大沼高校を一言でいうと・・・？

◎伊達 鷹（だて よう）先生（理科）

- ① さそり座 ② 栗ごはん、魚
- ③ クセや刺激が強いもの ④ 将棋部
- ⑤ 歌うよりギターを弾く方が好きです
- ⑥ 会津散策 ⑦ がんばってるから悩むねん
- ⑧ 自然豊かですごしやすそうな学校



◎石川 実咲（いしかわ みさき）先生（音楽）

- ① おうし座 ② 辛いもの
- ③ 漬物 ④ 水泳部
- ⑤ コブクロの歌
- ⑥ 自分好みの固めのプリンを作ること
- ⑦ 日日是好日（にちにち これ こうにち）
- ⑧ 桜がとても素敵な学校

◎戸田 直人（とだ なおと）先生（保健体育）

- ① 獅子座 ② 寿司（サーモン）
- ③ 特になし！ ④ バドミントン部
- ⑤ Superfly 『愛をこめて花束を』
- ⑥ ゴルフ（打ちっぱなし）
- ⑦ 自分を疑うな、信じろ
- ⑧ 温かい雰囲気



◎菅家 清次（かんげ せいじ）先生（数学）

- ① 魚座 ② 納豆
- ③ ニワトリの卵 ④ 卓球部
- ⑤ 加藤登紀子の歌
- ⑥ 歴史小説を読む
- ⑦ 行動する前に一度立ち止まって、これでよいか考える
- ⑧ 始業式の印象「静かだなー」



◎志賀 臣一郎（しが しんいちろう）事務長（事務室）

- ① おひつじ座 ② 鶏のからあげ
- ③ こんにゃく ④ 入っていませんでした
- ⑤ 桑田佳祐 『希望の轍（わだち）』
- ⑥ 子育てでいっぱい、いっぱいです
- ⑦ 「神は細部に宿る」という言葉を大事にしています
- ⑧ 他者を思いやる、温かい学校だと思います



《特集2》校庭散歩

〈南庭〉4月初め、梅の花が咲いていました。

（この時の撮影時はまだ桜はつぼみの状態でした）



本校の梅は白梅です。



◎梅・・・原産地は中国。一説には日本への渡来は弥生時代（紀元前3世紀～紀元3世紀ころ）に朝鮮半島を経て入ったものと考えられています。または、遣唐使が日本に持ち込んだとも考えられています。

日本では春の花、花見といえば、「桜」がイメージされますね。奈良時代には、すでに花見の原型が始まっていたとされます。そして奈良時代の花鑑賞といえば実は「梅」をさしていました。貴族たちの間では造園の際に梅を入れることが定番となっていたようです。そして貴族たちの人気ぶりをうかがえるのが、『万葉集』に詠まれた梅の数です。新元号「令和」の由来も『万葉集』の「梅」の歌にちなんだものであることは、みなさんも既に知っているかと思います。



↑ 南庭の桜はまだ2分～3分咲きといった頃でしょうか（4月上旬）

〈中庭〉

赤椿が満開です。白椿は咲き初めようです。（4月上～中旬）



◎椿（つばき）・・・日本や中国を原産とし、万葉の時代から日本人に愛されてきました。ヨーロッパに渡ったのは18世紀。東洋的で端正な美しさに「日本のバラ」という賛辞が捧げられます。19世紀には小デュマ（『三銃士』や『モンテ・クリスト伯』（巖窟王）で有名なアレクサンドル・デュマの息子）の原作小説に基づき書かれたオペラ「椿姫」にも主人公の女性を象徴する花として登場します。

椿の花言葉は・・・

赤色・・・「気取らない優美」「気取らない魅力」「見栄を張らない」「自然の美德」

「慎み深い」「控え目な美德」「高潔な理性」

白色・・・「完全なる美しさ」「申し分のない魅力」「至上の愛らしさ」



〈西門〉

1年生の駐輪場のところの桜は、日差しもよく入るので5分咲き～6分咲きのようです。

（4月上～中旬）

本校は敷地内に桜の木がたくさんあります。この時期は学校で、桜の花見を満喫できるのは素晴らしいですね。

〈第1グラウンド～東門〉



↓ ドウダンツツジ（灯台躑躅）



〈第2グラウンド〉



← 3年生の卒アルでは定番の桜です。

← ↓ 古御田神社の種蒔（たねまき）桜



◎桜・・・梅の人气が高かったとはいえ、桜は興味がなかったのかというわけではありません。そもそも日本人にとって桜は古来より大切な存在だったということです。それは「サクラ」という名前の由来という説からわかります。

「サ」は田の神様、「クラ」は神様の座る場所を意味しているのです。つまり、「サクラ」は神様が山から下りてきたときの一端留まる依代（よりしろ＝神霊が依り憑く対象物のこと）とされていたのです。だから「古御田神社の種蒔桜」の名称も、こうした説からきていると考えられます。

※ 桜の花でのお花見の起源は、「日本後紀」によると嵯峨天皇が催した「花宴の節」という宴であると記されています。鎌倉・室町時代に武士階級にも広がり、豊臣秀吉の「吉野の花見」「醍醐の花見」が有名。